

## 沖縄県ハンドボール協会 スポーツインテグリティ研修会 (2023・3・8)

昨日は研修会にご参加頂きありがとうございました。皆さんの「私は、いま、こう思う」を個人が特定できないように加工して一覧にしています。研修会内で「自分の価値観」を言葉にし、ペアディスカッションで「他人の価値観」を知り、この振り返り Paper で同じ研修会内での仲間の「多様な価値観」を学ぶことに繋げてもらえればよいと思います。

Play true を意識したコーチングを行なっていく。また、自分自身、誰が見ていようがいまいが、正しいことを、正しく行うことを意識していきたい。

私は、今回の講習において答えはわかりません。しかし暴言、体罰はしてはいけないと思っています。指導において、この暴言、体罰はせずにより良い選手、児童生徒の育成につながるよう試行錯誤して答えを導きたいと思います。

1回だけでなく定期的な研修会を希望します。

本日は研修の機会を与えてくださりありがとうございました。研修を受けて自分自身の指導を再度振り返るきっかけとなりました。これからも自己研磨し、指導をおこなっていきます。

今日の講習を受講して改めて体罰・暴言について自分の中で考えることの出来るいい機会になりました。これから自分の所属するチームで指導する時は今日の講習で習ったことを忘れずに指導を続けていきたいです。これからも子供たちにスポーツの楽しさ、素晴らしさ、ハンドボールの良さを伝えて行けるように頑張っていきたいです。

指導者の立場にあると、部活動に限らず、指導者としての役割と責任は必須だと改めて思い知りました。自分を振り返る機会となり、スタートとします。三輪先生、大変ありがとうございました。

20 年余り指導に携わってきましたが、やはり時代の流れで、常識だったものが非常識になって来ていることが改めてわかりました。この研修をスタートとして、研鑽を重ねより良いチーム、プレイヤーを育てる手伝いをして行こうと思いました。

選手達が何を求め、何を感じているのか？ 自分の経験論に当てはめて指導するのではなく、選手の一生まで考えて指導していきたい。

他人を育てるために自分の人生を捨てますか？ の言葉がすごく残りました。時代にあった指導法に変えていかないといけないと思いました。

大半の指導者は、自分の歩んできた道と照らして今の指導を行なっていると思います。今日の講習を受けて、初めて聞く言葉等もありましたので、この様な講習会は、継続が必要だと思います。冒頭にありました、ハンドボールを守る、これが重要です。

今回の研修を受けさせてもらって、自分の過去を振り返りながら、改めて自分はどんな指導者になりたいか考えさせられる良い機会になりました。これから指導をする上で自分を俯瞰して、子ども達のためになっているのか、本当に有

効なのか自問自答しながら、選手達と成長していきたいと思います。

コーチがこれだけの責任を背負い、子ども達の指導にあたってくださっている事、とてもありがたいと感じました。見守る側として、出来る事を。コーチの指導しやすい環境や子どもたちが練習に打ち込める環境をつくっていただけるようにしたいと思います。

毎年受講したい。

今回の講義はこれまでのハンドボール人生を振り返るとも貴重な時間でした。体罰・暴言はダメだとはわかっていますが、どの程度からダメなのかという線引きが非常に難しいと感じていました。しかし、前頭葉の話や多くの例を見て、自分の指導方法与照らし合わせる事もできました。今後もハンドボールを好きになる生徒が多く育つような指導を心掛けたいと思います。

今回の悉皆研修を受けて、素直な気持ちとしては、何か正解があるわけではないことは理解しているが、ではいろんな現状がある指導場面でどのような指導が望ましいのだろうかということを思いました。考えがまとまらない状況ではありますが、指導の仕方を学び続けることが必要であることは分かりました。

私はハンド経験者ではありませんが子供がハンドボールをしている為 10 年以上そばで見してきました。監督、コーチ、保護者からいろいろ話も聞いています。この内容を保護者の方に伝えていい部活が出来るようにしたいです。

時代が変わったんだなということを改めて実感しました。私の人生に大きな影響を与えた先生は同級生からの評価は分かれています。まさに、いい関係だった私にとってはとてもいい先生で、そうでなかった友人からすると怖い先生だったようです。背後には、体罰があったのかもしれませんが。授業では、とくに暴言もなくなっているはずなのに、部活動において暴言がなくなるのはなぜだろうと思ってしまいました。選手同士が自分たちで話し合う力も必要だと思います。それは部活動だけではなく、学校教育全体で育む力なのではないでしょうか。さまざまな視点から、いろいろなことを考えることができました。ありがとうございました。ただ、とても素晴らしい講義だったのですが、終わりの時間は守ってほしかったです。次の予定があつて困りました。ありがとうございました。おつかれさまでした。

この講義を受けて、正直、私の世代からしたら当たり前的事だと思いました。体罰、暴言を受けた事はありますが、した事はあります。また、こういう事も沢山学んできました。しかし、こういう機会がない限り、上の世代の指導者はこういう事を学ぶ機会がない人が多いと思います。時代に合わせた指導はもちろん、指導者というか、人は常に学ばなければなりません。日本の社会的背景や、美德が根付いているので、指導者全員が劇的に変わるという事はないかもしれませんが、体罰や暴言ではなく、誰が見ても良い指導だと思える指導を目指していきたいと思います。良い影響を周りに与えられる人間になりたいと思います。

指導をしている子供達が将来思い出した時に、あのコーチとハンドボールが出来て良かった、楽しかったと思えるような指導者を目指して行きたいと感じました。改めて自分の指導が正しいのか考えることが出来ました。

今回の講習を受けて、これまでの思いや考えを覆される内容でした。経験した事しか伝えられない自分がいて、恥ずかしい気持ちになりました。色々な方々の意見や考え、子どもたち(選手達)の気持ちや方向性を共有し、今後の指導へ生かして行きたいと思います。本日の講習、ありがとうございました！

研修内容を理解しつつ、その上で他チーム指導者から、組織からのハラスメント。ベンチから審判へのハラスメントがある。その環境へ立ち向かい子どもたちを守っていくのは非常に苦痛で困難である。大人同士のハラスメントにも目を向けていただきたい。

熱心な指導が出来なくなるんですねという言葉はとっても悲しく感じました。練習、試合の中で熱くなる場面が絶対出てくると思うので、その時にどんな顔をして、どんな声をかけるのか言葉を大事にしたいと思いました。子どもたちと共に考えながらまわりで支えるチーム作りをしていきたいと思います。

おい！などの言葉が暴言となっている事に対してかなり反省です。インテグリティ講習会が今後、私たちだけでは無く、子供達も成長させられると感じました。これから研鑽し good loser、good winner になり続けていける様、常に意識し勉強を頑張りたいと思います。

素直な気持ちで講義がスーと入ってきた。すごく分かりやすく、うちあたいることもあり、指導する時に気をつけなければならないと思った。うまくは言えないが、自分の中で整理されている。ありがとうございました。

今指導者に求められていることが気つけた研修でした。何が大事で何がダメなのかがわかりました。受講前は、強い指導は時には必要悪と思っていた自分が本音ですが、選手たちの目的・目標に合わせた指導ができるようにこれからもこの研修の言葉を思い返しながら指導したいと思います。私は、コーチとしての経験が浅く、自分の価値観をおしつけるほど知識も実力も技術もないので、今は選手から教えてもらうことが多いです。今後も子どもからも教わるという気持ちで、選手たちと付き合い、一緒に成長したいと思います。この研修は、毎年必要だと感じました。講習していただき感謝申し上げます。

今回の研修会を受けて、体罰、暴言は絶対にしない、選手と信頼し合える指導者になると有言実行します。

この研修を受けてこれまでの指導をもう一度見つめ直そうと思いました。暴力、暴言等の記事などを目にしても、駄目だよな位にしか思っていないんですけど、暴言はもしかしたら競った試合中は気づかずに発していたかもしれませんので、これから気を付けようと思います。

私のチームに所属する部員が最後まで続けられるような指導をしていきたいです。そのために学び続けたいと思います。もう一点、指導者を守るために勇気で防ぐという話がありましたが、頭でわかっているけど行動にうつすことはとても難しいです。同僚が体罰暴言をしている現場を見たときに、それをその人に伝え止めることができるのか全く自信がありません。複数人で現場を確認し伝える、管理者に伝える等「おかしいと思ったことに声をあげる」やり方も学びたいと思います。

今回の講習を受講して、僕自身が学生時代の時から考え方や捉え方が全く変わっており、指導者としての立場になってみて言葉や行動の難しさや選手との距離感の大切さがわかりました。ですが、最後にあった「一生繋がる人間関係」の素晴らしさや大切さを教える事が出来る、とても魅力のある事だと感じました。まだ指導者としての経験は浅く未熟ですが、スポーツの素晴らしさや人間性を育む事をサポート出来るよう日々学んで行きたいと思いました。今回の講習を受講できて有意義な時間を過ごす事が出来ました。ありがとうございました。

体罰・暴言が問題無かった時代は、それはそれで問題のなかった時代であり、良いも悪いもないと思っています。しかし、現在は、これがダメになっている時代になっているので、指導者のスキルをあげる必要があると思います。内地か

ら沖縄に来た時、強い沖縄のハンドボールに違和感を覚えました。それが今もなお、現場で感じます。〔勇気をもって指摘〕する、印象に残った言葉です。まだまだ、昔の社会が残っているように感じる〇〇〇部門ですが、課題をクリアにする為にも、各部門で定期的に行っていく必要もあるのかなと思いました。受け手側がイニシアチブを取る時代になっていますが、指導者が共に寄り添い本当に意味でのプレーヤーズセンタードになれば、もっと多くのトッププレーヤーが出てくるのではないかと感じました。

数十年前、私自身もコーチとして暴言を吐いていた1人でした。その中で、悩み続け、コーチングを学び、考え方は一変。スポーツは、人生を幸せにするツールである。として、目的とし、そこを一貫して追い求めています。今回の研修、とても貴重で学びの深いものとなりました。講義でもあったように、「悪人」はいないと思っています。その環境や、情報を知らなかっただけ。必須にする事で全指導者が受講する事で、最終的に子どもたちに還元される。自分を幸せと思える子どもが、1人でも増える事を願っています。

今回、講習を受けて自分は体罰について『肯定派』『否定派』どちらでもないと思いました。実際、自分は小学校・中学校・高校・大学の頃はずっと体罰を受けていました。自分は体罰を受け、何くそ精神で技術が身に付いたと思っています。ただ、人によっては体罰ではなく、ちゃんと話を聞きながら指導を行わないと萎縮する選手も知っているので、今回は考えさせられる講習だと思いました。

部活は人格形成のための一つの手段であると思います。今回の研修で、暴力や暴言は選手の人格形成にとってマイナスの効果を与えることが明確になりましたので、今後も、暴力や暴言のない指導を継続するよう努めます。素晴らしい研修、ありがとうございました。

今回の講習会に参加して、改めて指導の難しさを感じた。体罰、暴言に関しては、もちろん反対派だが、同時にどういふ言葉かけ、指導をしたらいいのかということも考えた。また、環境や現状によってクリエイトすることの必要性、指導に携わる人間として学びを怠らないことの重要性を感じました。「目先の一勝より、この子の一生」この言葉を念頭におき、これからの指導に活かしていきたい。

大変、勉強になりました。今後も、勉強続けていきます。

受講して、実際、私の学生時代は暴言、体罰はありました。やられている部員を見て、自分はやられないようにしっかりしよう、声だそうと思ひ冷や冷やしていた思ひ出があります。指導者になり、言うてはいけない事を言うてしまつて、やりすぎたのではないかと思ふこともあります。今日受講して、色々勉強になりました。ありがとうございました！

私は長年ハンドボールから離れていたが、娘がハンドボールを初めてから所属するチームのコーチとして招待してもらいました！指導することがなかったため、体罰や暴言について考えた事がなかったのが事実です。実際、学生時代は殴られたり叱られたりすることは、当たり前として競技を続けていたので、今回の研修会に参加でき大変勉強になりました。

スポーツ指導において体罰や暴言がなくなる一因の一つとして、『自分の言うことを聞かせるための手段であり、選手を支配し従わせるため』であると感じました。スポーツは指導者の支配欲を満たすものではないと改めて感じました。

私は、今回の受講を聞いて今まで以上に言葉遣いに気を付けながら、子供達に色々な方向から楽しいと思つてもら

えるような指導をしていきたいと感じた。自分が良くても、相手がどう受け止めたか、どう感じたかと考えながら子供達と寄り添い、共に成長したいと感じました。

スポーツを通して選手達にどう成長して欲しいか、そのためにはどう指導したら良いか、指導者も学びながら成長していく必要があると思いました。プレーヤーズセンタード、とても理想的な形だと思いました。昔を思い出しながら、ディスカッションしていくうちに、もう一度考える事ができて、とても良かった。

今回研修を受けて改めて指導の難しさを実感しました。体罰や暴言はないのが当たり前ですが、よくある「信頼関係があれば大丈夫」は間違っているということと、体罰や暴言によって道を外れなかった人より何倍、何十倍も不幸になった人がいるということを中心に留めたいと思いました。

競技経験者でもなく、子供の頃から体罰そのものに懐疑的でした。また競技指導者でもありませんが、スポーツ指導者としてのあるべき姿は教師としても同じことが言えるなど感じました。暴言についてのあたりでも、自分を振り返り、反省する事がありました。自分のこれからをどうするか、目の前の子どもの違いによって自分で見つけていきたいです。

いろいろと勉強させていただきました。このような機会をいただきありがとうございました。体罰、暴言を行なってはいないと思うが、相手がどう取っているかはわからない。声のかけ方も考えていけないといけないと思った。

現在、私のチームは合同チームで大会に参加しています。練習もなかなかメンバーが揃わない中での指導なので、大変なこともあります。参加する選手に対してハンドボールを楽しむことを教えて行こうと取り組んでいます。日々の練習は技術面主体になりますが、選手の取り組みたいことを拾いながら、指導して練習試合や大会でその選手たちが、その技術をしっかり出せた時の喜びは、何よりの喜びになっています。これから、プレーヤーズセンタードを意識して指導していきたいと思います。

体罰に対して否定的な考えがより強くなりました。お話の内容にあったように自分の経験が、体罰暴言による指導を受け、昔はこれが当たり前、自分が良い方向へ向かっていたから美談として思い出にありました。卒業後はやはりその経験論からの指導や関わり方が自分の中心にありましたが、次第に考えがかわり、社会人になり、たくさんの方々と関わる中で沢山の多面的多角的な考えが自分の中に腑に落ち、現在はどんな理由であれ体罰はしてはいけない、させない気持ちです。今回の研修で、より明確に理論的な部分も含め、自分自身が自信を持って他者に説明、抑止力として関わる事ができると確信しています。自分自身も最悪の事態になる可能性はゼロではないので、周りとの関わりを持ちながら相談、連携しながら、指導者として、教育者として関わっていききたいなと思います。本日は長い時間、ご講話ありがとうございました。

今回でインテグリティの講習会の受講は〇回目です。何回受講しても新たな振り返りがあります。私は主に〇〇の指導をしていますが、〇〇生は思ったことをすぐに口に出して意見を言ってくれます。つつい強い口調でその言葉を制したりする事が多々あります。コレも暴言になるのかもしれませんが。暴言は自己発散の象徴行為で感情的な暴走行為になるということを学び、考えさせられました。言葉の暴力にならないように気をつけていこうと思います。私の教え子がこの4月から教師になります。彼が私のような指導者になりたいと言っていると聞きました。嬉しい限りです。

練習中、試合中に監督、コーチが熱くなって大きな声で指示を出している場面をよく目にします。選手を激しく叱責しているチームも多くあり指導方法に疑問を持っていました。選手は、夢中でプレーしているので気にして無いようだが、ベンチの控え選手が萎縮しているのを感じます。やはり、大きな声は、不幸を増やすのだと今回学びました。

今回の研修でとても勉強になりました。改めて体罰が良くないこと、について考えることができました。また、自分のこれまでを振り返り、自分が経験してきたことに感謝すると共に、初心に返り気持ちを引き締めるいい機会になったと思います。子供たちの心に働きかけることが出来る人間性を育てる指導をめざしたいです。

今回の講習会に参加し、昨年取得した資格の振り返りも兼ねて聞いていました。やはり、指導するにあたりプレイヤーは『モノ』ではないということ。プレイヤーをいかに充実したハンドボール生活を送れるのか。指導者にはグッドコーチとバッドコーチということがあり、今日のグッドコーチの中でのグッドルーザーはとても重要であると考えさせられました。茨城の大原先生は知り合いです。JOCの全国大会予選で戦った時にも、負けたのにも関わらず同じ様な言葉を自分に話しかけてくれました。今後、指導をするにあたり変化に応じた様々な指導方法が必要になってくると思います。自分がこうだから、他がこうだからという視点ではなく、プレイヤーの目線に立ちながら良き変化が与えられるような指導者を目指していきたいです。本日はありがとうございました。

少し頭の整理が必要だと思いました。考える時間を得られたことに感謝します。ただ暴言のつもりでなくても受取る側でそれになり得る事はとても気になりました。他人を育てるために自分の人生を捨てますか?の言葉が心に残っています。全くのボランティアで足代から食事代、ひいてはラインテープまで自腹を切ってきましたが誤解で暴言と取られたらと心配になりました。今後も指導者を続けるか迷いが生じました。全てを一から考え直したいです。

今回の研修は指導者としてどう考え、行動していくのか、考える良い機会だったと思います。ペアワークでは、琉球コラソンで活躍した方と意見を共有でき、大変良かったです。研修の内容で感じたのは、自分の経験だけでなく、時代にあった指導方法を常に学び柔軟に選手主体であるべきだと思いました。体罰や暴言は部活だけではなく、授業などでも気をつけていますが、改めて考えることができました。今回の研修を企画して頂きありがとうございました。

三輪先生の言葉で、体罰はドーピングとありましたが、選手だけでなく指導者にとってもドーピングになり得ると思いました。さらに、それにより選手が強くなると、その成功体験により正しいと錯覚してしまうこともあると思います。日本の指導者は、学ぶ時間や機会が少ないです。ダメだとわかっているけど、体罰・暴言がなくせないのは、強くしたいと願う指導者や、指導方法がわからない指導者などが、浮かばれぬ思いで、体罰と言う禁断の果実に手を伸ばすような背景もあるのではないかと考えさせられました。「やっちゃダメ！」と言っていた時代から、「こんな言葉遣いや態度で！」と認識できるようになって来た今だからこそ、『こんな指導法で！』とコーチング手法を学ぶようなものが、悉皆研修として位置付けられるようになると、今の現状が非常識になる未来が待っているのではないかと感じました。

今回の研修を受けて、私はハンドボールを通して子供たちを幸せにしたいと改めて思っています。数ある部活動・スポーツの中から選んでくれたハンドボールの楽しさ、チームスポーツの魅力をどのように伝えるか？そのために指導者として、自身も日々学び研鑽し、そしてともに楽しむことが大切ではないかと感じております。約2年間という期限付きのチームで、99%は負けて終わる部活動。全てのチームが勝って終わることはできないが、いい終わり方は全てのチームができるはずであり、その充実感をどうやって得てもらおうか？私は体罰・暴言は論外であり指導者のスキルの低さがもたらすものと考えております。そのためには正しいコーチングの方法論の勉強が必要だと今回の研修にて強く感じました。私のひとつ一つの行動・言動がこの子の一生に影響する。情熱だけでなく、指導のスキルと責任・覚悟を持って生徒と向き合う。今後も定期的にこの研修を思い出しながら、ときには指導している自分を鏡で見つめながら子どもたちの未来に少しでも力になればと思います。また、私は幸運なことに現在、恩師である〇〇先生と指導の場にもともに立たせていただいております。いつも様々なアドバイスを頂戴しており本当に頭が下がる思いですが、今回の研修でおっしゃっていたように、次の世代に伝えていくことで恩は返していこうと思います。ハンドボールを守る。これまで繋げていただい

た先生方に感謝し、勇気と技術を持ちながら、下の世代へつなげていく役割を微力ながら努めていこうと思いました。今回の研修に関わる方々、ご多忙の中ありがとうございました。

指導者は、子供達の成長や人格形成の一端を担っている責任有る立場にあるので、ハンドボールの指導においても、自分の中ではしっかりやっているつもりでいても、何気ない言葉が嫌な思いをさせたり、傷つけたりとネガティブな場面も有るのも事実です。講習を受ける事で、何のために指導するのか？と言う原点を考えるとどう有るべきかを再認識出来ました。いつも目から鱗が落ちる思いで聞いています。これから他の指導者やこれから指導者を目指す後輩たちにいい影響を与えられる様に常に自己研鑽と実践に努めていきたいと思います。三輪先生はじめ沖縄県ハンドボール協会の皆さんありがとうございました。

今回の講習を受けて、改めて体罰・暴言について考えさせられました。自分も指導方法を考え直さなければならぬと感じました。ありがとうございました。